

トゲアリの寄生生活

郡場 央 基

A parasitic life of *Polyrhachis lamellidens* F. Smith
(Hymenoptera, Formicidae). First Report.

By Ohki Kohriba

I. 緒 言

寺西暢氏の言にあるように、トゲアリの雌には、形態的に特殊な点がある。雌の体は、職アリの割には小型で、長い肢を持つている。筆者も、本種について以前から興味を持っていたが、市街地では採集出来ず、観察する機会がなかつた。1961年秋に、初めて本種の脱翅雌を採集することが出来、一時寄生 (temporary social parasitism) の生活の一端を観察することが出来たので、その結果を発表する。

本文にさきだち、原稿の御校閲をお願いした兵庫農科大学の岩田久二雄博士、及び標本の同定をしていただいた九州大学農学部 of 安松京三博士に深謝します。

II. トゲアリの建設雌

採集日：23-IX-'61 午後3時頃。このアリの飛出期は、矢野宗幹氏によると、東京地方で10月下旬から11月上旬、寺西暢氏によると、大阪で10月21日の記録がある。

採集場所：京都市内、相国寺。

採集時の状態：トゲアリの雌は、エノキの大木の幹を歩行していた。

III. 寄生生活初期の状態

筆者は、近縁属であるオオアリ属 (Gen. *Camponotus*) のうちでも、大形で最も普通な種類であるクロオオアリ (*Camponotus herculeanus japonicus* Mayr) を寄主として採用してみた。寄生が容易に行なわれるように、人手を加えたが、産卵から職アリの羽化まで観察することが出来たので、以下、寄生生活初期の状態を日を追って述べることにする。

23-IX-'61. 採集して帰つたトゲアリの雌には、管ビンの中に水をしませた脱脂綿を入れ、蜜を少量与えて置いた。蜜は飲む様子がなかつた。

24-IX-'61, 11.20 a. m. トゲアリの雌のいる管ビンに、羽化してから1日位の若いクロオオアリの最小型職アリ1匹を入れた。これは、筆者が飼育しているクロオオアリの巣から、まゆを取り出して少数の職アリと共にシャーレで飼育し、羽化させていたもので、1961年に羽化したものばかりであつた。後に、トゲアリの寄主として使用したクロオオアリもこのシャーレの群から取つたものである。